

科目名	マクロ経済学 I	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Macroeconomics I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	はたけやま あきのぶ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	畠山 光史	修得単位	2単位
授業のテーマ	マクロ経済学への入門授業です。		
到達目標	学生は、マクロ経済学の基礎概念および基本的な分析手法を習得できる。		
授業概要	本授業では、マクロ経済学の考え方のうち重要概念である GDP、総需要、有効需要、乗数理論、貨幣、流動性選好理論および IS-LM 分析について学習し、これらの知識を前提として「閉鎖経済」下でのマクロ経済政策効果を分析します。		
授業計画			
第1回	イントロダクション		
第2回	GDP の考え方1 (GDP 統計の3大原則)		
第3回	GDP の考え方2 (名目 GDP と実質 GDP)		
第4回	財市場1 (総需要の構成要素)		
第5回	財市場2 (45度線分析)		
第6回	財市場3 (有効需要の原理)		
第7回	財市場4 (乗数理論)		
第8回	前半のまとめ		
第9回	資産市場1 (貨幣とは何か)		
第10回	資産市場2 (ケインズの流動性選好理論)		
第11回	IS-LM 分析1 (生産物市場の均衡—IS 曲線)		
第12回	IS-LM 分析2 (貨幣市場の均衡—LM 曲線)		
第13回	IS-LM 分析3 (生産物市場と貨幣市場の同時均衡分析: IS-LM 分析)		
第14回	経済政策の有効性 (財政政策・金融政策の効果)		
第15回	総まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください (1.5時間程度)。		
履修条件 受講のルール	経済学入門、現代経済入門の単位修得を前提とします。		
テキスト	指定しません。		
参考文献・資料	吉川洋 「マクロ経済学 (第4版)」 岩波書店 (2017) ブランチャール 「マクロ経済学 (上)」 東洋経済新報社 (1999)など		
成績評価の方法	小テスト(20%), 定期試験(80%) ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・遅刻は欠席と同等に扱います。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。		
オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限とします。		

成績評価基準	2016年以降に入学した学生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 2015年以前に入学した学生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	経済理論系の科目は、授業後の復習を行うとともにインターネット、テレビ、新聞、雑誌等で日本経済および世界経済のマクロ経済動向を積極的に把握するように努めることが重要です。